第４回 伊勢原市立小中学校の望ましい学校規模等に関する在り方検討会議会議録

【１】　日　　時　　令和７年１月２４日（金）午前１０時から正午
【２】　場　　所　　伊勢原市役所３階　議会全員協議会室
【３】　出席委員　　９名（会長及び副会長以外は、委員名簿順）
朝倉会長、大川副会長、本間委員、古住委員、須永委員、吉川委員、嶋田委員、飯島委員、菅原委員
【４】　欠席委員　　１名
【５】　出席職員　　山口教育長、成田教育部部長、櫻井学校教育担当部長、
立花歴史文化推進担当部長、熊澤参事兼教育総務課長、
坂野教育総務課施設担当課長、守屋参事兼学校教育課長、
田中教育センター所長、杉山社会教育課長、
笹木教育指導課係長、窪田教育総務課係長、
相川教育総務課主査
【６】　傍 聴 者　　０名
【７】　内　　容
１　開会
２　教育長あいさつ
３　議題
(1) 前回（第３回）会議の概要について【資料１】
(2) 市立小・中学校の教育環境に関するアンケートの
実施結果（概要）について【資料２】
(3) これからの学校像について【資料３】
(4) 中間とりまとめ（令和６年度検討内容まとめ）について【資料４】
(5) その他（今後の検討スケジュール（案）等）【資料５】
４　閉会
【８】　配布資料
・　次第
・　配布資料一覧
・　【資料１】第３回伊勢原市立小中学校の望ましい学校規模等に関する
在り方検討会議（概要）
・　【資料２】伊勢原市立小中学校の教育環境に関する
アンケート報告書（概要版）
・　【資料３】これからの学校像
・　【資料４】中間とりまとめ（令和６年度検討内容まとめ）
・　【資料５】その他（今後の検討スケジュール（案）等）

会議録

【１　開会】

〇事務局

定刻になりました。

ただ今から「第４回 伊勢原市立小中学校の望ましい学校規模等に関する在り方検討会議」を開催いたします。

これまで同様、本会議は「伊勢原市審議会等の公開に関する要綱」に基づき、原則、会議は公開としており、後日、会議の議事録は市のホームページで公開させていただきますのでご承知おきください。

あわせまして、議事録作成のため、録音させていただきますので、ご理解をお願い申し上げます。これ以降、傍聴者の方がお見えになりましたら、随時入室を許可しますので、お願いいたします。

それでは、次第に沿って進行いたします。次第２【教育長あいさつ】となります。山口教育長、よろしくお願いいたします。

【２　教育長あいさつ】

〇教育長

お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

前回会議では、小中学校を取り巻く現状と課題について、多くのご意見をいただきました。

本日は、昨年１１月に実施したアンケート結果の概要についてご説明をさせていただきたいと思いますが、興味深い内容だと思いますし、これらを含めてこれからの教育を考えていただくことになると思います。

前回ご提示した「これからの学校像（案）」については、推進するための具体的な内容の説明を加えましたので、ご意見をいただければと思います。

本日は、今年度最後の会議になります。これまでタイトなスケジュールの中で多くの議題に対してご意見をいただきましたが、本日の内容までを中間まとめとしたいと思いますので、そちらについてもご意見をいただければと思います。

限られた時間ではございますが、大切な内容となっておりますので、よろしくお願いいたします。

【３　議題】

（１）前回（第３回）会議の概要について【資料１】

○会長

それでは、次第に則り、議事を進めます。まずは、議題の１番目「前回（第３回）会議の概要について」事務局より説明をお願いします。

○事務局

令和６年１１月２２日（金）に開催いたしました第３回会議の概要についてご説明いたします。

【小中学校を取り巻く現状と課題について】ですが、①通学区域及び通学路については、ヘルメット着用に関する市の考え方や小学校の徒歩以外の通学手段について、②教育指導・教員配置では、授業でのタブレット・紙教材の使用状況、情報教育推進連絡会の頻度等について、小学校における教科担当制の今後の取組について御質問をいただきました。

つづいて、③地域資産と地域人材の活用では、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動における課題等について、④教員が本来の業務に専念できる環境づくりでは、部活動の地域移行における課題等について、⑤学校施設では、小学校における給食の提供方法について、⑥学校運営コストでは、競争的資金の活用について、御質問をいただきました。

つづいて、委員の皆様からいただきました「主な意見」についてです。

【小中学校を取り巻く現状と課題について】５つのテーマでご意見をいただきました。①通学区域及び通学路では、路側帯のグリーンベルトの効果についてと、通学路の安全対策について、②教育指導・教員配置では、大山小学校の小規模特認校制度について、③地域資産と地域人材の活用では、学校運営協議会について、④教員が本来の業務に専念できる環境づくりでは、部活動における教員配置に関する意見について、⑤学校施設では、プール施設の在り方等について皆様からご意見をいただきました。説明は以上となります。

○会長

意見をお願いいたします。

特に意見が無いようなので、次に進みます。

（２）市立小・中学校の教育環境に関するアンケート報告書（概要版）【資料２】
〇会長
　つづいて、議題の２番目「市立小・中学校の教育環境に関するアンケートの実施結果（概要）について」事務局より説明をお願いします。

〇事務局
　今年度実施しました「市立小中学校の教育環境に関するアンケート」の実施結果について概要を報告いたします。
　「調査の概要」です。アンケートは、保護者をはじめとする学校関係者や無作為抽出の市民に対し、昨年１０月末から１１月いっぱいまでを期間として実施しました。表の合計欄にありますとおり、対象全体の約４２％の回収率でした。
　「これからの学校教育で重要だと思うもの」を選ぶ設問ですが、回答項目は１０個あり、棒グラフは、回答割合が高かった順に並んでおり「基礎的な知識等、学習の基盤となる資質・能力を育む教育」、「豊かな人間性育む教育」の順で高い回答割合となっています。
　特徴的な回答としましては、教職員は、中学校において 「基礎的な知識等、学習の基盤となる資質･能力を育む教育」「児童生徒一人一人の興味･関心等に応じ、その意欲を高める教育」「学校と地域が連携した体験学習やキャリア教育」の割合が全体と比べ、１０％以上回答割合が低くなっている一方で、小中学校ともに「少人数指導等によるきめ細やかな教育」の割合が全体と比べ、１０％以上高くなっています。また、学校運営協議会では、小中学校ともに「学校と地域が連携した体験学習やキャリア教育」の割合が全体と比べ、１０％以上、高くなっています。
　小学校の１学年あたりの望ましい学級数では、すべての属性において「３学級」が望ましいとする回答が高い割合を占めており、選択した理由項目の中で、あてはまる・ややあてはまると回答した割合が高かったものは「一人ひとりの状況に応じた、きめ細かな指導が受けられる」、「クラス替えができる」、「多様な価値観に触れる機会があること」は他の理由に比べ高い回答割合となりました。
　つづいて、小学校における１クラスあたりの望ましい人数とその選択理由です。小学校の１学級あたりの望ましい人数は、保護者の約４割が１学級あたり「２６～３０人」が望ましいと回答する一方で、教職員の約６割は１学級あたり「２１～２５人」が望ましいと回答、学校運営協議会では、約８割が「２１～３６人」が望ましいと回答しています。一方で、子どもの回答の約４割は「３１～３５人」が望ましいと回答しており、他の属性に比べ、回答割合が高い結果となりました。
　つづいて、１学年あたりの望ましい学級数ですが、中学校の１学年あたりの望ましい学級数は、保護者では約３割が「６学級」、教職員では約４割が「４学級」、学校運営協議会では約３割が「３学級」が望ましいと回答しており、それぞれの属性で最も高い回答の割合となっています。また、回答の理由として、どの属性においても「一人ひとりの状況に応じた、きめ細かな指導が受けられる」、「クラ

ス替えができる」、「多様な価値観に意見に触れることができる」と回答した割合が高くなっています。また、子ども（中学校２年生）の望ましい学級数についての回答として、約７割が「４～６学級」と回答し、最も高い回答割合となっています。

つづいて、中学校における１クラスあたりの望ましい人数では、保護者・教職員・学校運営協議会の約５割が１学級あたり「２６～３０人」が望ましいと回答しており、回答の理由としては、どの回答も同程度の回答割合となっています。一方で子ども（中学２年生）は、約５割が「３６人以上」、約３割が「３１～３５人」と回答しており、他の属性に比べ、１学級あたりの人数が多い回答を選ぶ割合が高くなっています。

つづいて、小学校における通学時間は、現状、約５割が「１５分未満」、約４割が「３０分未満」となっており、全体の９８％が４５分未満の通学時間となっています。望ましい通学時間は、どの属性においても「４５分未満」と回答する割合が大半を占めており、現状の通学時間と概ね同様の回答結果となっています。通学時間を超えた場合の配慮としては、すべての属性において「住所から近い場所にある学校への通学を認める」と回答する割合が最も高くなっており、それ以外の回答では、保護者と学校運営協議会の約５割が「スクールバスを運行する」と回答し、教職員では、約６割が「公共交通機関（バスなど）の利用を認める」と回答しています。

つづいて、中学生の通学時間については、現状、約４割が「１５分未満」、約６割が「１５分～３０分未満」となっており、全体では、約９９%が４５分未満となっています。望ましい通学時間としては、各属性で「１５～３０分未満」と回答する割合が高くなっているとともに、全体的に４５分未満と回答する割合が高くなっています。また、通学時間を超えた場合の配慮としましては、各属性で「自転車通学を認める」と回答する割合が最も高くなっており、それ以外の回答では、保護者と学校運営協議会で「住所から近い場所にある学校への通学を認める」と回答する割合が次いで高く、教職員については「公共交通機関（バスなど）の利用を認める」と回答する割合が６０．２％と高い割合となっています。

つづいて、学区設定で重要だと思う項目は、すべての属性で「安全・安心な通学路・通学手段で通学できるようにする」と回答した割合が最も高く、次いで「児童・生徒に負担がかからない程度の距離・時間で通学できるようにする」と回答した割合が高くなっています。

つづいて、学校施設に関する設問となります。全体的な傾向として、プールとトイレに関する満足度が他の諸室に比べて低い結果となっています。

「これからの学校の在り方」に対する意見や要望についての自由記述では、主な意見とともに、テキストマイニングという手法を用いて、使われる頻度の高かったキーワードを文字の大きさで表しました。傾向としては、教職員の働き方・負担軽減に関する記述、給食のあり方に関する記述が多い傾向が見られました。

つづいて、小学校４年生、６年生、中学校２年生の集計結果の特徴的な回答としまして、小学校６年生に対する【問４】「中学校に進学することで気になること」の回答結果では、最も回答割合が高かった回答は「部活動」が４７．８％、次いで「新しい勉強をすること」が３７％、そして「学校行事」２８．１％と続いています。

つづいて、中学校２年生の回答結果、【問３】「中学生になって小学校との違いで戸惑ったこと」の回答結果として最も多かった回答は「学習」の６７％、次いで「部活動」の２７．６％、そして、「上級生との関わり」２４．１％でした。資料の説明は以上となります。

〇会長

項目を区切ってお話を聞いていきます。「これからの学校教育で重要だと思うもの」の結果が載っています。教職員は「少人数指導等によるきめ細やかな教育」が非常に大事だと回答していますがどうですか。

〇委員

少人数ということで、伊勢原中学校では英語・数学で取り組んでいますが、教員からは一人ひとりに目が届くので学習指導として有効だという話が出ています。

人数が４０人の場合、子どもたちを教員１人で指導することになりますので、きめ細かに学習指導を行うのは大変であると聞いており、少人数による指導は効果があると現場の職員から意見が出ています。

〇委員

他の教科についても少人数のほうがいいのですか。

〇委員

例えば体育の実技は、本校の一年生はティームティーチングを行っています。マットを用意するなどは、人数が多いほうが準備しやすいし、危険を伴う柔道やプールなどは複数の目で子どもたちをみることができるので、少人数の効果もありますが、教科によっては、ティームティーチングの効果があると思います。

〇委員

教科の特色に応じた指導が必要だということですか。

〇委員

アンケートの回収率が気になりました。特に保護者が意外に少なかったと思うのと、先生は当事者なのでもっと高くてもいいと思いました。教育委員会として、この回収率をどう思っていますか。

○事務局
　回収率については、委員がおっしゃられるように対象者によって、もう少し回収率が高くなるような仕組みやお願いの仕方ができたらよかったのかなというような結果でありました。今回のアンケートは、限られた期間の中で調査内容や方法を絞り込んでアンケートを実施しました。調査方法については、ネット環境で実施することに限りました。これは速やかに集計するためですが、紙も併用すればもう少し回収率が上がったと思います。
　回答件数としては、回答精度を考える上では問題ないと考えていますが、回収率はもう少し高かったほうが望ましいという思いもあります。

○委員
　保護者、先生の回答率をみたときに関心がないのかな、と感じて残念に思い、質問させていただきました。

○会長
　アンケートの回収率については、回収率自体に何かが隠されていると読み取ることもできます。あまりに高いと、日常的に問題があると感じている場合もあります。回収率が高くないということは、まあまあ理解されていると捉えることもできます。
　保護者も概ねうまくいっていると思っていると捉えていいと思いますし、子どもたちの教育に高い関心をそれほど持っていない、ということも読み取れます。
　先生方も忙しい中、協力していただいていると思います。現在の教育がうまくまわっていると認識することできました。これからの教育のために、直すポイントが無いか探すために、アンケートを活用するといいのかなと思っています。
　そう考えると「これからの学校教育で重要なこと」は見落とせないと個人的に思っています。１番高い項目が「基礎的な知識等、学習の基礎となる資質・能力を育む教育」となっているのをみて改めてそうだと思います。私の時は、バブルの時代で、学力は軽視されていて、コミュニケーション能力を重視されていた時代と感じていますが、時代が変わってきているなと感じました。
　その他についていかがでしょうか。

○委員
　「学校と地域が連携した体験学習やキャリア教育」については、中学校の先生と学校運営協議会の乖離がとても激しいと思います。先生にとっては地域連携を重要視していないのか、忙しくて難しいのか、事情がわかれば教えてほしいです。
○委員
　年間計画の中の地域連携については取り組みやすくなっていますが、新たなものを教育課程に組み込むことについては、人材を探すことが難しいところです。学校運営協議会のみなさまに協力をいただいたり、提案をいただくこともありますが、

今ある教育課程にどのように組み込むか工夫するのが難しいです。教員にとっても授業にどう生かすのか、地域連携のスキルも特に若手だと、経験がない先生もいるので、どうやったら地域の能力や資源を教育課程にいれられるかが課題になっています。

〇委員
　教科書の内容をしっかり教えることも精一杯ということもあると思います。

〇委員
　現場の負担を考えると実践は難しいことがわかりました。体験学習というのは、中学校で職場体験をしますが、それも関係していますか。

〇委員
　大きなものとして職場体験はわかりやすいと思います。４校中２校が今年度行うことになっています。子どもたちが選んだ職場を１日体験しますが、その１日のために、何か月もかけて準備しています。子どもたちにとって１日が有意義であればよいですが、体験に行っただけで何も得ずに終わってしまうということもありますので、その１日の価値や意義を考える意味があります。職場体験に変わる地域の方との連携を探している学校もあります。

〇委員
　中学校の場合は、受験や部活動が盛んで、体験学習などの準備に時間が取りにくいこともあると思います。小学校の体験学習については、プログラムが充実している印象です。

〇委員
　学区の中の教育資源、科学館や消防署、商店街での学習、公園の四季折々を体験する授業が小学校では組み込まれています。
　話が変わりますが、アンケート結果で地域との連携を学校運営協議会の方が高い割合で重要だと思っていることがありがたく、意識を高くもっていることが数字から感じ取れました。本校もまだ情報交換だけで実際に何かを行わず終わっているため、そこが課題と思っています。中学校の先生との乖離も指摘がありましたが、地域連携は大切であると意識を高くしていかないといけないと感じています。
　子どもを取り巻く課題は複雑で、学校だけでは立ち行かないので、いろいろな立場の方に関わってもらうことが大事だと思っています。また、子どもたちは昔に比べて地域の人と関わる機会が減っていますので、将来の人と関わる力につながるようにしていきたいと思います。

○委員
　コミュニティ・スクールが定着してくると、出来てくることなのかもしれません。
　「ＩＣＴ環境や先端技術を活用した教育」についてはもっと高く出ると思いましたが、そこまで高くない結果でした。
　１学級当たりの望ましい人数も現状より少ない数の方が望ましいとの回答が出てきています。小さいクラスサイズで子どもたちの様子をしっかりみていくことが市民ニーズとしては高いということがわかりました。

○委員
　回答は「いくつでも選択可」になっていますが、一人が回答した数はどれくらいでしたか。全部重要という人もいると思います。

○事務局
　集計結果データを確認して回答させていただきます。

○委員
　私も回答していて全部大事だと思ったので難しい設問でした。

○委員
　ＩＣＴの関係ですと、紙の教科書をデジタルに置き換えることについて、話し合いは進んでいますか。

○事務局
　話し合いは進めているところでありますが、ＩＣＴ化を進めていくことはもちろん大事ですが、デジタル・アナログと、どちらもいい所があるので、それぞれのいい所を選んで授業を行っています。

○委員
　デジタル教育については、海外では見直し機運が高まっていて、デジタル教育を進めないほうがいいのではないか、という話が出ています。
　そういう意味では、これくらいの回答率のほうが子どもたちのためになるのかもしれないと思いました。慎重な検討が必要だと思います。

○委員
　デジタル教育については、保護者の回答率は低めに出ていると思いますが、保護者としては、教育についてはよく頑張っているという意見です。

授業参観でデジタル機器を授業でうまく使っている様子がみられますが、家庭学習として考えると紛失リスクなどがあることから、家庭に持ち込まないで学校だけで利用している今の状態が良いかなと思っています。

従来型の詰め込み教育から、これからの深い学びや主体性を考えると、タブレット端末だけでは難しいかなと思います。

少人数のほうが効果的に学べると思いますし、保護者も安心だと思います。これからの教育について期待しているところです。

〇会長

通学時間などの話がでてきています。環境面について、ご意見があればと思います。給食は温かい給食、プールのコストパフォーマンスなどの話がありました。

〇委員

通学時間について、実際の時間と望ましい時間がだいたい一致しているのは腑に落ちました。通学時間の許容範囲を超えた場合の配慮について、スクールバスについては小学校が多め、中学生は自転車でも通学できることと思いますが、「公共交通機関を認める」が高くなっていて、教職員と保護者で考え方が違うのかなと思いました。

〇委員

学校の最適化を考える際に非常に重要な視点だと思います。もっとも地方ではスクールバスの運用が始まっていますが、幸い伊勢原市では一部の学校でバス利用があって、今はそれで収まっています。

２０２４年度の出生者数７０万人程度で、第二次ベビーブームから比べると半分以下になっています。より子どもたちを大切に育てていくということですが、学校数を絞ることになれば、スクールバスの運用も必要になるだろうと思います。

〇委員

地域によっては公共交通機関が使えないエリアがいくつもありますので、結果的にスクールバスは、必要になってくるだろうと思います。

大田小学校の一番遠い子どもは、現状、通学時間が１時間かかっているのではないでしょうか。車通りが多い所を通学しているのではないかと思います。

〇委員

これからの学校施設に重要な機能について、防災・防犯が高い割合になっています。予算などの大人の事情だけで考えると、子どもたちの通学環境は非常に危険になりますので、守ってあげる必要があります。また、学校施設のバリアフリー化とか、地域の方が使えるようにするなどがポイントだと思います。

〇委員
　学校の体育館に行ったらすごく寒かったと言っている地域の人がいました。予算は限りがありますので、生徒の学習環境が優先だと思いますが、現在、施設で不足していることを考える人がアンケートの回答では多くて、将来のことについて意見を述べているのかわからないところがあります。

〇委員
　今回のアンケート結果でテキストマイニングを使われているのに驚きました。「働きやすい」というのが大きくなっているのも、個人的には大事な視点だと思います。先生たちは子どもたちと違い、学校は職場ですから、働きやすい視点は大事だと思います。

〇委員
　自由意見のまとめについて、新しい手法を採用しているのはおもしろいと思いました。
　主な意見では、いろいろな授業の形などが求められていると感じました。ＩＣＴの活用や先端授業、プログラミングなど新しい技術を教育の場面でも取り入れていこうというのが感じとれました。デジタル、アナログ、どちらでも目的を達成するための手段として選択できる幅が広がるのが大事だと思います。
　小１からプログラミングを習っている子どもがまわりにいますが、プログラミングをやることが目的になっていると感じました。そもそもプログラミングは、社会課題・社会問題などを解決するのが大きな目的だと思います。新しい授業を取り入れることはよいと思いますが、どのような子どもに育ってほしいかの議論が先だと思いました。

〇委員
　確かにプログラミングをすることが目的になっていると感じることがあります。そもそもはプログラミングで思考力を養うことが目的だと思います。
　追加資料についても興味深い資料です。学校で楽しいことは、小学校、中学校とも「友だちと遊んだり、話したりすること」になっています。

〇委員
　質問の回答数が「２つ」までだったらそのような回答結果になると思います。回答数が「いくつでも」でしたら授業についても入ってくると思います。

〇会長
　ご意見いただきありがとうございました。議題３に移ります。

(3) これからの学校像について【資料３】

〇会長

つづいて、議題の３番目「これからの学校像について」事務局より説明をお願いします。

〇事務局

「これからの学校像（学校目標ごとの推進方策イメージ）」について、ご説明いたします。

「これからの学校像・学校教育の目標等の整理」について、こちらは、前回の第３回検討委員会で掲出済みの内容ですが、概ね２０年間で実現を目指す、これからの学校像の案として「多様な人や社会との関わりの中で、児童生徒一人ひとりの可能性を引き出す学校」として掲げています。そして、目指す学校目標として「１　きめ細やかで、切れ目のない教育の実現」「２　地域に根差した持続可能な教育の実現」「３　新しい時代の学びを支える教育環境の実現」を位置付けました。

推進方策についてですが、目標１「きめ細やかで、切れ目のない教育の実現」の「小中一貫教育の検討」は、本市教育委員会における新たな取組となります。アンケート資料にも一部回答結果として掲載していますが、中学２年生が進学時に戸惑ったこととして、「学習」や「人間関係」と答える割合が多いという結果が出ています。いわゆる「中一ギャップ」の緩和等を図るため、まずは、義務教育９年間を見通した教育課程の整理から、中長期的には、施設の一体化を含め、検討を行って参りたいと考えています。

また、前回の推進方策から一部修正・追加を行ったものがあります。目標２「地域に根差した持続可能な教育の実現」の右側「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の推進」では、前回、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を別々の推進方策として掲げていましたが、本市では、この２つを一体的に推進することから、１つの推進方策として再整理しました。

目標３「新しい時代の学びを支える教育環境の実現」の「教職員の執務環境の改善」は、国の学校施設整備の考え方等を踏まえ、新たに追加しました。

さらに、「安全・快適に利用できる持続可能な学習環境の整備」は、前回、「学校機能の改善」としておりましたが、施設の安全対策やバリアフリー化とともに、環境負荷軽減の視点を明確にするため、表現とイメージの修正を行いました。

説明は以上です。

〇委員

小中一貫教育が入っていますが、公立の学校で進められるのか疑問に思いました。具体的な進め方などについてもう少し教えていただきたいです。

○事務局

小中一貫教育の考え方について、一般的には、施設・建物を１つにするというイメージが浮かぶと思いますが、本市における今後の検討においては、まずは小学校６年、中学校３年別々の教育課程９年間を見通して、検討・整理するところから進めて、共有していくとこから始めることを考えています。

一方で中長期的にみて、児童生徒数の減少が進んだ場合、例えば中１ギャップの解消、施設整備の視点から、一体的な整備も今後の検討項目として挙がってくると思っています。

別々の敷地のままで一貫的な教育課程を実施する小中一貫校も可能ですし、同じ敷地内で小学校、中学校を別建物で整備する形もできます。小学校中学校のエリアを同じ施設の中に一つの施設で整備することもできます。

小・中学校それぞれの校長先生をおく小中一貫校もあれば、校長先生１人になる義務教育学校もあります。本市については、まずは教育内容から検討を始め、児童生徒数の動向をみながら、可能な中学校区があれば施設一体的な整備を検討していきたいと思います。

○教育長

補足ですが、先進的に進めている地区も県内にいくつかあります。そのやり方も、施設は現状の小中学校を使って教育課程だけ小中一貫教育を行っているところがあります、施設一体型で行っているところもあります。１つの学校として４・３・２制として行っている義務教育学校もあります。先進的に行っているところは、始めるときに不安は大きかったそうです。小学校、中学校の風土や文化が違うので、運営上の不安があったそうですが、行った効果はあるとどこも言っています。効果をあげるには、小中施設を一体化するべきだという話も聞きました。子ども同士の交流・教職員の交流ができます。施設一体的に使えることは、コスト面だけでなく、教育面でもメリットがあるとのことです。みんなで理解することから始めることが大事だと思いますし、その第一歩が教育内容をどうしていくかということだと思います。

○委員

成瀬は小中一緒だったので、運動会なども一緒に行いました。中学３年生が小１、小２の面倒をみるなどがすごく思い出になっています。これが小中一貫教育というかはわかりませんが、それを思い出すと交流などがわかると思います。

○会長

小中一貫校は、いろいろな自治体で始まっていると思います。教育効果というよりは学校最適化の問題でスタートしているところが多いと思います。昔、中高一貫校で働いていたとき、保護者の方に入学理由を聞いたことあります。その大きな理

由は、「中学３年生の受験がない」でした。その他には、カリキュラムを中学校、高校と一本化していることが入学の理由とのことでした。カリキュラムを工夫することは良いと思いますが、そのカリキュラム編成の自由度は、学校によって違うと思いますので、どれくらい教育が担保されるのか、これによって変わってくると思います。ただ、無駄なことをすることも、教育では当たり前であると思います。それでは、次の議題に移りたいと思います。

(4) 中間とりまとめ（令和６年度検討内容まとめ）について【資料４】

〇会長

つづいて、議題の４番目「中間とりまとめ（令和６年度検討内容まとめ）について」事務局より説明をお願いします。

〇事務局

第１回目の委員会から検討を進めてまいりました内容について、今年度のとりまとめという形で整理しております。

「望ましい学校規模等に関する基本方針」策定の考え方、そして、検討体制とこれまでの会議開催の経過を記載するとともに、第１回から第３回にわたり整理しました「小中学校を取り巻く現状と課題」について、ポイントとなる内容について要約しました。

①市全体の児童生徒数・学級数の推移と推計について、令和３年度推計と今年度の推計結果について記載しております。

つづいて、②中学校区別の児童生徒数と学級数の推移と推計についてポイントを整理しました。学級数に推計につきましては、１学級あたりの人数を、小学校３５人、中学校４０人で計算しておりますが、昨年末頃の報道で、政府が公立中学校の１学級あたりの上限人数を２０２６年度以降、現在の４０人から３５人へ順次引き下げることを決めたという報道がございました。具体的な年次計画は示されておりませんが、将来推計における中学校の学級数が変わる可能性があることから、今後の検討の中で、３５人学級とした場合の推計を改めて行いたいと考えております。

つづいて、「多様な支援の状況」について、学校別の施設状況と通学区域と通学路について、「教育指導・教員配置」、「地域資産と地域人材の活用」について、「教員が本来の業務に専念できる環境づくり」「学校運営コスト」について整理しました。

つづいて、「市立小中学校の教育環境に関するアンケート結果（概要）として、先ほどご説明しましたアンケート結果の概要について、主な回答の集計結果を一部抽出して掲載いたしました。

つづいて、「これからの学校像」です。これまでの整理内容を踏まえた形で「これからの学校像」の案、目指す学校教育の目標、推進方策イメージを整理いたしました。来年度以降は、現状課題の整理とこれからの学校像（案）を踏まえ、望まし

い学校規模等に関する基本方針の策定を進めてまいりたいと考えております。資料の説明は以上となります。

〇会長
　今回第４回目の会議で、本格的な議論は次回からだと思います。これまで色々な教育に関わる数字や現状を提示していただいたところだと思います。次回は、それに基づいてこれからどうしていくかを議論していくことになると思います。中間とりまとめとしては、これまで提示した数字などの報告を一度、市民に報告するという形になり、これまでの議論内容は今後反映されていくことになると思います。
　全体を通して何かご意見やご質問があればお受けいたします。無いようでしたら事務局から次の議題の説明をお願いします。

(5) その他（今後の検討スケジュール（案）等）【資料５】
〇事務局
　これまでの検討内容を踏まえ、来年度は、基本方針の策定を進めてまいります。
　詳しい日時は未定ですが、来年度は全５回の会議を想定しており、４月・６月の会議では、望ましい学校規模と配置に関する考え方と望ましい学校規模等の実現に向けた推進方策の提示、７月以降は、基本方針の素案として、市民説明やパブリックコメントの実施、そして、来年１月目途に基本方針案の策定へと進めていく予定となっております。資料の説明は以上となります。

〇委員
　少しタイトな印象を受けます。

〇委員
　市民説明会は、どのような形になりますか。

〇事務局（課長）
　まだ具体的な方法については検討中ですが、基本方針については、市内小中学校１４校に関する基本的な方針なので、個別の学校を今後どうするかというものにはなりません。現在予定している９月の市民説明会は、市域全体で１回程度行う予定です。アンケートで調査対象となった方を中心に周知したいと思います。
　令和８年度以降は、学校別に個別の議論を進めることもあると思いますので、その段階では地域別の説明会を実施していくことになると思います。

〇委員
　対象の方々に方針の説明を行っていくということでわかりました。ただ、市民説明会をやってもなかなか人が集まってこないことも多いので、どうするのかなと思

いました。公民館にパネルを貼って意見を聞くことを行っているところもあります。市民説明会といってもごく一部の人しか集まらないではないかと思いましたので、方法を検討していただけたらと思います。よろしくお願いします。

〇会長

過去に教育振興基本計画が新しくなったときに説明会を行ったと思います。

そのときは大ホールで、内容説明などを２時間程度だったと思いますが、今回はそれとは違うものになるのでしょうか。具体的な学校の話がないとすると、集まっていただいた方々は、意識の高い方が集まっていることになると思います。それなりの内容で、それなりの質問を受けることが想定されると思います。

他に質問等がありませんか、無いようですので、本日の議事は終了させていただきます。

〇事務局

皆さん本日はありがとうございました。

それでは、以上で第４回学校在り方検討会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。